

演習問題2

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

ウラ模試2

[No.5] 伝熱に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 平滑な壁体の表面近傍に形成される温度境界層において、表面に極めて近いところでは層流となり、表面から離れたところでは乱流となる。
2. 建築物の熱容量が大きいと、室温の変動は緩慢になる。
3. 外壁を構成する各部材の熱伝導抵抗が大きくなると、一般に、熱貫流率は小さくなる。
4. 空気（静止状態）は、分子間の距離が大きく、分子の衝突による熱交換が起きないため、熱伝導率は、0となる。

ウラ模試2

[No.7] 昼光・色彩・照明に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. マンセル表色系において、「5G7/8 と表される色」より「5G8/6 と表される色」のほうが明度は高い。
2. 受照面が均等拡散面である場合の輝度は、照度と反射率の積に比例する。
3. 受照点に対する光源面の立体角投射率は、その光源面が曲面の場合においても算出できる。
4. プルキンエ現象は、明所視において、比視感度が最大となる波長が短い波長へずれる現象である。

ウラ模試2

[No.8] 日照・日射に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 窓ガラスの日射熱取得率（日射侵入率）は、「ガラスに入射した日射量」に対する「ガラスを透過した日射量とガラスが吸収した後に室内側に放出された熱量との和」の割合である。
2. 一般的な透明板ガラスの分光透過率は、可視光線の波長域より赤外線の高波長域のほうが小さい。
3. 夏至の日の終日日射量は、南向き鉛直面に比べて、東向き鉛直面のほうが大きい。
4. 「SAT」は、相当外気温度をいい、「内外温度差」、「日射量」及び「壁や天井等の熱容量の大きい部材による熱的挙動の時間遅れ」を考慮した、熱貫流計算を簡略に行うために使用される。